たちばな新聞

橋蓮苑　蓮華堂
水谷山　寶清寺
たちばな会館

秋のお彼岸
九月二十日（金）～二十六日（木）
お中日・九月二十三日

お会式
十月十二日（土）十一時より

お会式の法要を厳修いたします。
お会式は宗祖日蓮聖人のたくなられた聖日であり、当山最大の行事でもあります。お施餓鬼と同様にお弁当の用意がありますので、多数のご参拝をお願い致します。

毎年、七月十七日のお施餓鬼と十月十二日のお会式の法要の後、住職の法話を行う事を恒例にしています。今年も、七月十七日のお施餓鬼法要の法話は、平成三十三年が、宗祖・日蓮聖人ご降誕八〇〇年に当たり、本堂の入り口に「いのちに合掌」と書かれた幟が掛けてある事にちなんで「いのち」をテーマにお話を致しました。当日は百人を超える方の参列でした。当日、法話を聞かれていない方も多く、大切なテーマでもあるので、今回は、**法話の概略を紹介することに致します。**

日蓮聖人遺訓（第三十五回）

「法華経は草木を仏となし給う」
（上野殿御返事）

この御遺文は駿河国富士郡上野郷に在住の南条時光公からの供養に対する礼状です。法華経は、草木でさえ仏とする教えです。信仰し供養する人々を成仏させないことはないのです。**「成仏」とは心と身体が最も安定した姿のことです。現在は非常に不安定な社会ですが、不安な要素の中にも安定の種は必ず存在することを信じて、安心安定を目指しましょう。**

住職ひと口法話（第三十五回）

『「いのち」を軽視しているのではないかと思われる傾向については、生きている人に対してだけではありません。

「いのち」を軽視しているのではないかと思われる傾向が顕著です。祖母が孫二人を道連れに無理心中をしたり、十六歳の少女とそのグループが同級生を殺したり、本当のところは分かりませんが、中学校の教師が、中学二年生の自殺について、「自殺をあおるようなこと」を言ったのではないかが問題になっています。どれを取り上げてみても「いのち」を軽視した傾向と言わざるを得ません。

『『「いのち」を軽視しているのではないかと思われる傾向については、生きている人に対して』

『『「いのち」を軽視しているのではないかと思われる傾向が顕著です。